

令和7年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生市立福生第一中学校

校長名 金子敏治

教育目標

これから的新しい時代に向けて、人と社会・自然環境等と協調しながら、生きる力を育む資質・能力を育成するため、次の目標を設定する。

- 自立（自ら考え、判断し、行動する。：「思考力・判断力・表現力」）
- 共生（誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合い、人々の多様な在り方を認め合う。
：「人間関係形成力」）
- 貢献（ある事物や社会のために役立つように力を尽くす。：「課題解決力・実践力」）

1 目指す特色ある学校像

- ・全ての教育活動において、一人の生徒を大切する理念が貫かれ、実行する学校
- ・生徒一人一人の主体性が發揮され、豊かな人間性を開花させることができる学校
- ・専門性の高い指導による良質な教育活動が提供され、生徒が学ぶ意欲と喜びを実感できる学校
- ・「ふるさと福生」に愛着と誇りをもち、活力を発信する学校

2 学校経営の目標

（1）中期的目標

- ・一人一人のかけがえのない命を尊重し、心豊かな生徒を育成する。
- ・夢と理想の実現に向け生涯にわたり自立した学習者として主体的に学び続ける生徒を育成する。
- ・心身ともに健康で、最後まで粘り強く取り組む生徒を育成する。
- ・学校・家庭・地域の信頼関係に基づき、地域愛と誇りをもち、社会貢献できる生徒を育成する。
- ・教職員一人一人の教師としての資質・専門性と、集団としてのまとまりや組織力を高める。

（2）本年度の目標

- ・人権教育の推進と道徳教育の充実を図ることで、生徒一人一人がかけがえのない存在であるとともに、異なる個性や価値観をもった他者であることを理解し、自他を尊重する態度を育てる。
- ・各教科等における学びを前後の学習や、他教科、日常生活、自らの将来と関連づけて考えることで、主体的に課題を設定し解決していく能動的な学びと学習意欲の向上を図る。
- ・「楽しく・分かる・できる」授業の実践と、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進により「主体的・対話的で深い学び」を実現し、確かな学力の向上と基礎・基本の確実な定着を図る。
- ・「生徒指導提要」に基づく生徒理解と組織的な指導により、生徒が自発的・主体的に成長や発達する心を醸成し、「望ましい生活習慣」と、自ら決断し実行する「自己指導能力」を育成する。
- ・校内支援委員会を中心に特別支援教育を組織的に推進し、多様な個性に応じた指導と配慮ある支援を充実させ、「いじめ」・「不登校」を防止し、安全・安心な学校づくりを行う。
- ・学校行事や保健体育の授業等を通して、目標に対して粘り強く取り組む態度を育て、生涯スポーツへの意識と、生徒の健康増進・体力向上を図る。
- ・ふっさ文化の杜委員会（CS）を核として、家庭や地域社会との連携・協働を推進することで、愛校心や地域愛、社会貢献への意識を育成し、開かれた学校づくりを推進する。
- ・一中校区小中連携担当校として、義務教育9年間にわたる系統的・継続的な指導を行うことで、望ましい学習習慣と生活習慣の確立を推進する。
- ・校内分掌・研修の活性化を図り、R-PDCAサイクルを推進し、円滑な組織運営を行う。

3 目標達成に向けての課題

- ・生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢の育成に向けた生徒意識及び教員指導力の向上

- ・より良い学校運営推進に向けた教育活動の精選と、組織体制の構築
- ・家庭・地域の学校に対する関心・理解を高めるための連携強化、開かれた学校づくりの推進

4 経営の具体策

(1) 学力向上

- ・学習カード等を活用し単元の見通しをもちながら各授業の目標や課題を明確にし、振り返りを行うことで、粘り強く取り組む姿勢や自己調整力を育成する。
- ・一人1台端末を始めとするICTを活用した個別最適な学習、体験的な学習、放課後学習・家庭学習等の充実を図るとともに、話し合い場面を設定し協働的な学習を推進する。
- ・言語活動の充実について行事や日常生活等でALTの更なる活用を図り英語教育を推進する。また、各学年のオリエンテーション等で図書館の活用を進めることで読書活動を推進する。
- ・校内研修で確かな学力の向上、及び指導と評価の一体化に向けた更なる授業改善に取り組む。

(2) 健全育成（道徳教育、生活指導・進路指導）

- ・生命尊重、思いやり、感謝の心等を重点とした道徳的価値や22の内容項目について「考え・議論する」道徳の授業を実践するとともに、教育活動全体を通して豊かな人間性を育成する。
- ・いじめは絶対に許さないという共通認識のもと、未然防止、早期発見、早期対応等、学校いじめ対策委員会を毎週開催し、組織的対応及び関係機関との連携を図る。
- ・不登校対策推進委員を中心に関係諸機関との連携を図り、個に応じたきめ細かい対応を組織的に行うとともに、毎学期初めに心のアンケートを実施し、状況把握と相談しやすい環境づくりを進める。
- ・キャリアパスポートを活用しながら、4つの基礎的・汎用的能力の育成と、社会的・職業的自立に向けて3年間を見通した系統的な指導を推進し、自分の将来に向けて考える指導を行う。

(3) 特色ある学校づくり（特別活動）

- ・主体性及び自治能力の育成を中心とした学級活動、生徒会活動、学校行事の企画・運営を行う。

(4) 健康・体力づくり

- ・「生活手帳」を活用し、あいさつ、言葉遣い、食事、歯みがき、睡眠など「望ましい生活習慣」や規範意識の確立に向け、生徒自らが考え、成長するための指導・支援を行う。
- ・教育活動全体で生涯にわたってスポーツへの興味・関心を高めたり、運動への親しみをもたらせたりすることで生徒の体力向上を図る。

(5) 学校運営（特別支援教育を含む）

- ・校内外の研修により、法令順守、教職員の資質・能力の向上と、ICTによる校務効率化を図る。
- ・校内支援委員会において支援の必要な生徒の把握と関係機関等と連携した指導を推進する。
- ・学びの多様化学校7組の教育活動の充実を推進するとともに、分校化に向けた準備を進める。
- ・特別支援学級8組・9組と通常学級との生徒間交流を推進するとともに、教員間の出前授業等、支援・協力体制の構築を図り、インクルーシブ教育を推進する。

(6) 家庭・地域等との連携（信頼される学校）

- ・ふっさ文化の杜委員会（CS）を核とした家庭・地域関係機関との連携により、ボランティア活動、食育講話等を協働推進し、愛校心や社会貢献の意識を育むとともに、より一層の信頼関係を構築する。
- ・小中連携コーディネータを中心に各小学校と連携を図り、学習指導・生活指導・特別支援教育等に関する系統的、継続的で具体的な指導の実践を推進する。

5 年度末のチェックポイント

- (1) 授業アンケートの全授業で「授業が楽しい」「学習内容がわかる」の肯定回答率の経年比較。
- (2) 学校評価（生徒及び保護者）の各項目における肯定回答率の経年比較。
- (3) 「全国学力・学習状況調査」等諸調査の結果、平均値との比較。